

# 日本人の記憶の物語 能、その深い知恵を世界へ

能囃子方(はやしかた)小鼓の大倉源次郎さん(60)は、今年10月、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。28歳で大倉流小鼓方十六世宗家となり、重責を果たす一方で海外公演にも意欲的に取り組んできた。卓越した技量のみならず、斯界発展への貢献も認定理由。「能の価値を世界に発信していきたい」と語る。甲南学園の自由な校風の中で過ごした体験と、培った人的ネットワークは他では得難い財産だろう。取材は、12月末で閉館となる思い出深い大阪能楽会館で行われた。

能は「日本人の記憶」の集積です。これまでに3000曲以上がつくられたと言われますが、現行曲は約240曲。1曲1曲に人間のドラマがあり、見方を変えると一大叙事詩とも言える膨大なソフトが継承されてきました。しかし、オペラやバレエのタイトルを相当言える方でも、能のタイトルをどれだけ挙げられるでしょうか？

能楽の価値を正式に分かっていただきたく願って、公演やレクチャーを重ねています。今年『大倉源次郎の能楽談義』(淡交社)という本も出版しました。

能楽小鼓方大倉流の発祥は奈良・大和盆地、現在の桜井市のあたりです。初代は1450年ごろに生まれ、90歳過ぎまで生きたと伝わっています。足利将軍、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉などの庇護を受け、徳川幕府では江戸に住まいを頂きました。祖父の代に関東大震災で被災し、関西に戻りましたが、大阪でも空襲があり、伝来の道具や書物の多くを焼失し、祖父はそのことを非常に苦にしています。

僕は大阪市内で生まれ、小学校の途中で夙川(西宮市)に引っ越しました。「源次郎君には甲南がぴったりだ」と知人に勧められ、中学校から甲南で学びました。能が忙しくなると2

代からは能楽堂での能を、または能そのものをもう一度見直そうと取り組んでいます。

戦国の世から戦なき世に転換するために、徳川家康が示した二つの大きな政策、参勤交代と能の式楽化が実行されました。全国の武家に能が広がり、「候文」という共通言語ができ、行き違いや小競り合いが激減したと思われれます。また、いろいろな役を演じることで民衆の心を知る統治者を育てました。学校の教科書に参勤交代は出てきますが、式楽としての能は解説されていません。戦国時代を終わらせた知恵を日本人が受け継いでいないとすれば、大変な損失です。それは、地球全体が荒れている時代に、日本から世界に発信するべき「知恵」ではないでしょうか。

能楽の世界ではまだまだ若手の小生に、重要無形文化財保持者(人間国宝)とお話があった時は驚き、正直戸惑いましたが、父が亡くなったのはちょうど今の60歳でしたので、周囲の皆様に「お父さんのかわり」と励まされました。また「応援してください」と言っていた期待に応えよ」とも言っていたことができました。

能の大成者である観阿弥と世阿弥、先祖たちを始めとする能をつくり、様々な危機を乗り越えて後世に伝えようと努力を続けた先人たちの苦労があります。たまたま生を受けた大倉源次郎が、小鼓方として育つよう皆さんに引き立てていただいたお陰で日々の舞台を勤めさせていただいています。能の持つ深い「知恵」を伝え続けていくことが僕の役割です。

父が亡くなって宗家を継承したのは28歳の時。若い頃は能楽堂を飛び出し、公園や劇場でも能を上演しました。海外公演も二十数カ国を経験し、改めて能楽堂は世界に誇れる劇場建築だと感じたのです。40



阪神間モダニズムの薫りを  
今に伝える

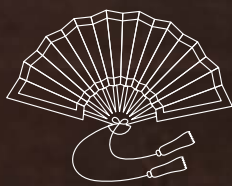
1919年、教育者・実業家であり文部大臣を務めた平生飢三郎(ら)は、ちさぶら(ら)により旧制甲南中学校が開校。平生の教育理念である「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させる」を建学の精神とする。甲南大学は旧制七年制高等学校を母体に1951年開学。現在、文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部、知能情報学部、マネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部、8学部、人文科学研究科、自然科学研究科、社会科学研究科、フロンティアサイエンス研究科の4研究科、法科大学院を擁する総合大学に発展している。

学校法人

甲南学園

大倉流小鼓方十六世宗家

大倉源次郎



Profile  
GENJIRO OKURA

1957年、大倉流十五世宗家・大倉長十郎の次男として大阪に生まれる。64年、独鼓・鼓之段にて初舞台。81年、甲南大学卒業。85年、大倉流小鼓方十六世宗家を継承(同時に大鼓方大倉流宗家預かり)。2017年、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。パリ・ニューヨークをはじめ、海外公演にも多数参加。子供向けの能楽体験講座なども各地で開催。神戸能楽の集い「風の能」「談山能」「日月能」などの公演を継続している。公益社団法人能楽協会理事、一般社団法人東京能楽囃子科協議会理事、一般社団法人日本能楽会会員。近著に『大倉源次郎の能楽談義』(淡交社)がある。